
魔法少女リリカルなのは Eternal

戒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは Eternal

【Nコード】

N0829W

【作者名】

戒

【あらすじ】

これは約束と誓いの為だけに生きる少年と、そんな少年を救いたいと願う優しい少女達の物語

プロローグ（前書き）

初投稿です

プロローグ

名も無き世界

そこは赤黒い空と荒れ果てた大地が続き、そしてその大地には・・・
・・・数え切れないほどの剣や、槍や、杖や、弓や、斧や、その他
にも様々な種類の武器が突き刺さっていた。

そんな場所に一人の少年が顔を伏せ瞳を閉じた状態で佇んでいた。

そして少年はそのままの状態で、ゆっくりと話始める。

「久しぶり、・・・最近あんまり来なくてごめん・・・・・・・・」

そう言った少年の声はあまりに暗く、そして・・・・・・・・哀しげだった。

「俺なら大丈夫・・・・・・・・、交わした約束があるから・・・・・・・・
独りでも生きていられる、・・・・・・・・歩いていける」

（・・・・・・・・俺に残っているのはもうそれだけだから・・・・・・・・

）

97 管理外世界 地球

とあるビルの屋上、そこに四人の男女が神妙な面持ちで、そして決意をした瞳で向かい合っていた。

「主の体を蝕んでいるのは、闇の書の呪い」

「はやてちゃんが、闇の書の主として真の覚醒を得れば……」

「

「我らが主の病は消える。少なくとも進みは止まる」

「はやての未来を血で汚したくないから、人殺しはしない。だけどそれ以外ならなんだってする」

「申し訳ありません、我らが主。ただ一度だけあなたとの誓いを破ります」

4人は魔方阵を展開し、騎士服を纏う。

「我らの不義理を御許し下さい」

そう言つて4人は転移する。

自分たちの行いが主の為になると信じて・・・

1 話（前書き）

やっと投稿できました。

次はもう少し早くできるよう頑張ります

1話

彼女達『ヴォルケンリッター』の4人は闇の書の蒐集の為、リンカーコアを持つ生物を求めて、様々な世界を別々に渡ろうとしていたはずだった……。

「どこだよっ、ここ!？」

そうヴィータが苛立った声で叫ぶ。

他の3人もまた口には出さなかったが同様に感じていた。

何故なら、彼女達が今いる場所は荒れ果てた大地が続き、自分達の目的である蒐集が望めそうにない世界だったからだ。

シグナムもまたこの現象について考えに耽っていた。

（確かに何故、この世界にいるのか、些か不可解ではある。・・・だが原因を解明しているような暇は我らにはない。）

そう結論付けると、全員に指示を出し始める。

「シャマルは広域探査を、ザフィーラとヴィータはリンカーコアを持つ生物の搜索を行ってくれ」

「わかったわ」

「了解した」

「……こんな所で蒐集なんて行えんのか？」

ポツリとヴィータがそう呟く。

そんなヴィータの呟きをシグナムは聞き逃さなかった。

「なんだ、ヴィータ……、不服があるのか？」

「……ねーよ」

（地獄耳）

ヴィータはそう思いながら答える。

「ならば、いつまでも留まっていなくて搜索へ向かえ」

「いちいち言われなくてもわかってるよっ！ ザフィーラ、行こうぜ」

「ああ」

二人がいなくなった後、シグナムはシャルルに疑問をぶつけ始める。

「シャルル、お前はこの現象どう思う？」

「わからないわ。でも、もしかしたら転移魔法を展開したときに何かしらの干渉を受けたのかも……………」

「では、我らがこの世界にいるのもそれが原因か？」

「確証がある訳じゃないから、そうとは言い切れないけど……………可能性は高いと思うわ」

「そうか」

シャルの返答にシグナムは納得できないといった表情を浮かべる。

（これ以上は時間の無駄だな。）

シグナムはそう結論付けると、表情を引き締め次の行動に移る。

「この世界についてはどうだ？何かわかったか？」

「そのことなんだけど、ここ魔力反応どころか生体反応もほとんど感じられないの……………」

「だけど……………何だ？」

言い淀むシャルにシグナムは訝しげに聞く。

「……………ある座標だけ魔力素がすごく濃い。自然に発生したとは思えないくらいに……………」

「魔力素が濃い座標か……………一応向かってみるか。リンカーコアを持つ生物がいるかもしれんしな」

「そうね」

「その座標は何処だ？」

「ちよつと待つてね……。ここね。ヴィータちゃん達が向かったのは反対側の方角みたい」

「ならばヴィータ達には、私が伝えよう。シャルはその座標について探査を続けてくれ」

シャルは頷き、シグナムは通信を行う。

「シグナムだ……。ヴィータ、ザフィーラ、何か変わった事はないか？」

「別に……。なんもねーよ。相変わらず同じような景色が続いているだけだッ」

「捕獲対象はおろか生物すら見つかっていない」

「そうか」

シグナムの問いにヴィータは苛ついた声で、ザフィーラはいつも通りの冷静な声で答える。

「こちらはシャルが異常な座標を見つけた。我らは今からそこへ向かう。ヴィータとザフィーラも合流してくれ」

「わかったっ」

「了解した」

その言葉と共にブツという音で通信が切れる。

「ヴィータちゃん、苛立ってるわね」

「ああ、だが自分を見失うほどあいつも子供ではない。大丈夫さ。
・それで他には何かあったか？」

「・・・ごめんなさい、これ以上は何も・・・」

「気にするな、もとより行くつもりだったのだ」

「ありがとう、シグナム」

詳しいことは何も解明できずに落ち込むシャマル。
それをシグナムは優しく励ます。

そして二人はその座標に向かって移動し始める。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0829w/>

魔法少女リリカルなのは Eternal

2011年11月15日00時24分発行